

[エコキュートがやってきた]

Data File



ホテルふせじま

(群馬県太田市)

【導入の目的】

ランニングコスト
低減

CO₂排出量
削減

【設備の概要】

エコキュート +
循環加温型ヒートポンプ

業務用エコキュート(密閉対応)、循環加温型ヒートポンプで、2系統のシステムを構築。

【導入の効果】

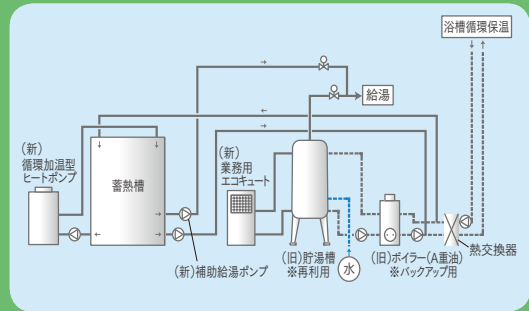
ランニングコスト

CO₂排出量

-44%

-66%

【システム図】



【物件概要】

- 所在地: 群馬県太田市数塚町162
- 延床面積: 10,753㎡
- 竣工(設備更新): 2008年11月

Interview



既存設備を生かし イニシャルコストを 抑えつつ ランニングコスト低減と CO₂排出量を削減

展望露天風呂が自慢のホテル

群馬県やぶ塚温泉のホテルふせじまは、同地域を代表する温泉ホテルだ。地上6階建てで、66室の客室、数百名収容のレストランなどを備えている。

温泉ホテルだけに、展望露天風呂・大浴場での給湯・加温の需要が大半を占めており、客室の風呂やシャワーの利用は少ない。平常時のピークは17〜19時だが、日中も日帰り温泉として営業しており、繁忙期には1日100〜200人の利用客が訪れるという。

重油値上がりを機に エコキュートの導入を決定

2008年夏の重油価格の値上がりを機に、同ホテルは従来

の重油に依存した設備の見直しを行った。

そこで浮上したのが、割安な深夜電力を活用してランニングコスト低減を図ることができるエコキュートの導入だ。群馬県では、環境GS(ぐんまスタンダード)認定制度により事業者の環境問題への取り組みが推進されていることもあり、CO₂排出量削減につながるエコキュートの導入は、こうした社会的背景にも合致するものであった。

早々に導入を決定し、同年11月には改修を終えて、運用を開始。導入したのは、業務用エコキュート(密閉対応)5台と、循環加温型ヒートポンプ5台だ。前者は給湯用、後者は温泉の加温に利用する。当初は、従来システムとの違いに戸惑った部分もあったというが、数カ月で慣れ、今では客足を読みながら適切な調整を行い、効率のよい運用ができていくという。

その結果、2012年の実績では、2008年と比較して、ランニングコストは約44%低減、CO₂排出量は約66%削減と、大きな成果を挙げている。



ホテルふせじま
総支配人
西村哲也 氏

既存設備を活用しつつ 無駄のない移行

導 入時に課題となったのが、エコキュートで使う貯湯槽の設置スペースだ。同ホテルの敷地内には、大容量の貯湯槽を配置するスペースがなかったため、ボイラーで使っていた既存の小さい貯湯槽をそのまま利用することにした。ただ、この容量ではピーク時の需要に対応しきれないため、業務用エコキュートと、循環加温型ヒートポンプを組み合わせる2系統のシステムを構築することで、ピーク時の不足分を補うようにしたのである。これは、機器トラブル時のバックアップも兼ねている。

今後は、排湯の利用なども視野に入れ、さらなる効率化を目指していくという。



左)業務用エコキュート(密閉対応)
40kW×5台[三菱電機]

右)循環加温型ヒートポンプ52.6kW×5台[三菱電機]